

特集

広がる環日本海経済圏の交流

平成24年10月、韓国江原道東草市で「第18回環日本海拠点都市会議」が開催され、日本、中国、韓国から9都市の代表が一堂に会し、一つの経済圏として発展していくための具体的な方策を協議しました。

環日本海拠点都市会議とは

日本海を取り巻く4カ国の拠点都市間における経済交流に向け、相互の信頼を育み、発展的な取り組みを行う場として、平成6年から開催。鳥取市は平成18年の第12回会議から参加し、環日本海経済圏の各都市と交流・連携を図ってきました。鳥取県内の自治体では、本市のほかに米子市、境港市が参加しています。

経済交流への具体的な方針

10月5日（金）に行われた会議では、各都市の代表が「環日本海都市間物流交流の活性化方策」をテーマに発表。本市は、「既存の国際航路の利用促進と新たな航路の開設への協力」、「圏域内の観光ルートの設定等による観光交流の促進」、「展示会・商談会への積極的な支援などによる物流の拡大」、「自



鳥取市の特産品を積極的にPR販売

然災害発生時における会員都市間の相互支援体制の確立」の4点について提案しました。

代表者会議での各都市の合意事項を備忘録に取りまとめ、各都市代表が署名し、東草宣言として公表しました。



本年9月、ウラジオストク市で開催されたロシアAPECに先立ち、8月に開通した「**金角湾横断橋**」

この宣言には、北東アジア経済協力体制を構築することを目標として、会員都市が環日本海地域の国際航路と航空路の活性化および新規航路の開設に積極的に協力することや各都市が参加する実務会議を定例化すること、各都市での特産品の展示販売を常設化するための協議体を3年以内を設置することなど、一歩踏み込んだ内容が盛り込まれています。国境を越えた人と物の自由な移動と交易の活性化に向けた新しい展開に期待が膨らみます。

物流・貿易交流拡大への新たな取り組み

今回の会議では、昨年8月に鳥取市で開催された第17回会議の合意事項に基づき初めての試みとして、会員各都市による物産展示会が開催されました。本市は、らつきよう、鳥取カレー、生姜せんべいなどの特産品の試食・販売を行い、鳥取市の特産品や鳥取砂丘をはじめとする本市が誇る観光資源を多くの東草市民にPRしました。

今後物産展示会への参加に対する支援や経済実務者の協議などを通じて、圏域都市間の相互物流の拡大に向けて意欲的に取り組んでいきます。

問 本庁舎企画調整課

TEL 0857-203154

環日本海交流は新たな展開へ

本市では、この会議で長年培ってきた環日本海拠点都市相互の交流を活かし、ロシア沿海州ウラジオストク市や、延吉市、図們市、琿春市を含む中国吉林省延辺朝鮮族自治州などとの間で、経済・観光分野の結びつきを強めています。

今年3月には、同自治州に深澤副市長を団長とする調査訪問団を派遣しました。また、6月には延辺朝鮮族自治州訪問団（李龍熙州長と琿春市など3市長）が本市を訪問。李州長と竹内市長との間で友好交流覚書を締結することで合意しました。

これを受け、9月に竹内市長、中西議長をはじめとする鳥取市訪問団を同自治州へ派遣。李州長と竹内市長が、環日本海地域ではウラジオストク市に続き2例目となる「友好交流の覚書」に調印しました。この覚書には、経済

友好交流覚書に署名する李州長と竹内市長

